

がんばろう 南三陸町

復興第 7 1 号

南三陸マイタウン情報

発行所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

企画・編集

志津川広報センター

南三陸町初のフラップゲート

5 月 15 に、戸倉寺浜地区に整備される津波防災システム「フラップゲート」の、建設整備会社の説明と試験稼働が行われた。

寺浜漁港のある地区は、戸倉半島の先端に位置し、小さな入り江には集落が点在し、海岸の家々のほとんどが流失し、漁港も大きな被害を受けた。漁港は震災復旧も終わり、昔よりも作業のし易いように整備された。



この地区における津波防災システムとして、漁港は入り江にあり、防潮堤の役目をするのは入り江の崖のように感じる。地区に 2 カ所の海岸への出入りがあり、一カ所の通路に「フラップゲート」を整備した。車の通行がある道路に、幅 4 m と高さ 1 m の津波防御壁の施設、海拔 7 m の場所に 1 m の防水壁となる。



普段は海の作業の通行道路を、津波襲来時には、津波の水の力で、防潮壁が起立する。

今回の大震災で津波監視の消防団員 2 名が、津波の犠牲になり、その

検証の元で、無人での津波の被害の減災を、この設備でカバーする事になる。

津波は 100 年に一度と言う「L1」の規模に対する、津波防災システムで、漁港の背後地に広がる農地と家々を津波から守る。



宮城県県の自治体で初めての津波防災のシステム「フラップゲート」の稼働試験が 15 日(テレビ報道より)に南三陸町戸倉地区で開催された。

南三陸町では防潮堤の建設場所 19 カ所の内、13 カ所に 24 基が整備される。工事や規模の大小もあるが一基当たり 1 億数千万円もする。開発会社は山梨県の会社で、西日本の各地に 30 カ所も既に整備建設がされている。対応年数は 50 年で、定期検査やパッキンの交換など、維持費は今後も係る事となる。



三陸沿岸の漁港を守り、地域の水産業の再建には、津波防災対策は絶対不可欠であり、「命を守る対策」は被災自地位の対応として欠かせない。

南三陸町人口の推移

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
23年3月	17,064	7,823	2,296	1,884	5,061
30年3月	13,141	5,374	1,428	2,006	4,333
29年5月からの増減数	-239	-13	-62	-38	-126
29年5月の世帯数	4549	2055	490	622	1382
世帯数	4581	2087	472	659	1363
世帯増減	+32	+32	-18	+37	-19

※ 2045 年人口予想…南三陸町 6,400 人
気仙沼市 33,000 人
(2018 年 3 月の新聞記事より)

南三陸町民の 地域支えあいモール落成式



日時 平成 30 年 4 月 27 日
場所 志津川東団地西工区
(あさひ幼稚園向かい)

志津川地区の東団地西工区の一部に、高齢者生活支援施設が落成し、午前 10 時から式典が開催され、周辺の災害公営住宅に暮らす、高齢者が自分達の活動する場、また、志津川デイサービスセンター施設の利用者として、施設の開設にあたり、そのお祝いを見守った。

国交省と UR 都市機構、南三陸町と社会福祉協会との施設内容について協議のうえ、委託団体のジオ・プランニング代表の塩路さんは、この施設の名称は『地域ささえあいモール』と紹介し、「南三陸町のカラーにしていこう」と話す。高齢者支援活動だけではなく、住民の「婚活パーティーの場」としての活用もしていこうと挨拶で述べた。「地域の誰にも愛される場所となるように!」と最後を締めくくった。

(仮称)地域ささえあいモールは、「結(ゆい)の里」として 4 月にオープンし、えんがわカフェ等を設けた「デイサービスセンターしづがわ」として、地域の「繋(つながり)」を創造していく。

志津川地区の新井田川に 3 本の橋が開通した



新井田橋

旧役場庁舎の裏側に入口があり、右の高台には災害復興住宅が見える。出口は丸平木材さんの脇を通り、ホームセンター「ダイユーエイト」側につながっている。



未来橋



大森橋

志津川市街地の本浜町から大森への橋「大森橋」が整備された。左には東山公園があり、右には水産工業団地が見られる。

歌津地区伊里前の国道 45 号線の 工事にあたりう回路が完成した



歌津地区の伊里前川には河川堤防が建設中で、旧歌津大橋の被災道路を利用し、水門があった場所に仮設の橋が整備され、『ハマーレ歌津』への来場も行きやすくなった。

5 月 27 日撮影

猫の島 石巻市田代島の 「猫神社」の旅



「海洋・海華復興の会」の発足から 8 年目を迎えた。

「大震災の復興は宮城の海から」、「松島での世界海洋博覧会を」と、大きな夢の目標に向かい活動している。

現在進めているのが「田代島・島起こし」で、大学教授の先生方や、大企業の社長さん達も参加し、「島起こし隊」を結成した。石巻市にも協力を



呼び掛け、県会議員・市議会議員にも理解を得て、被災地「石巻市・田代島」の、過疎の島の再開発を夢見る。



は満員状態だった。テレビでも放送され、国内に留まらず外国からの観光客もある「猫の島」が、こんなにも人を引き付ける魅力を理解できなかった。私の見た猫の数と、島民の数は感じたままでは「猫」が多かった。雨なので島民も猫も午前中は見当たらなかった。

観光船は 9 時出発で定期便に特別便とも 200 人~250 人が乗り込み、島の人口は 10 倍以上にもなると言う。行きは波浪で 55 分、午後は天気恵まれ 45 分の船旅だった。

猫の魅力は島を歩き感じた。目的地は「大泊」



だが、港が震災復旧工事中で、車で 15 分の「仁斗田港」が唯一の受け入れ港だった。帰りは「猫神社」を見ての帰路のはずだったが、一つ道を間違えた。出港は 2 時 12 分で、

港から 30 分と言う神社まで、また坂道を歩いた。既に 1 時間は歩いて足も痛い、ここまで来たので乗り越して次の便でも良いとの考えで、神社までの坂で猫たちをカメラに収めながら港から進んだ。20 分歩いた坂道ですすがに足のマメがつぶれ参ってしまった。その時、可愛い猫の鳴き声、草むらから一匹の猫が出て来た。「ホッとさせ癒された。」、その瞬間「これなんだと。」と実感した。



石巻市「田代島」に、こんなにも多くの家族連れ、多くのカップル、外国人観光客が猫島の離島を訪れる理由はこれだと感じた。SNS の力がこんなにも大きく、人は癒しを求め働き生活をしていた。



田代島島起こし隊の拠点、大泊の「古民家猫カフェ」で、カレーセットと自然の森のコーヒで「おもてなし」してくれる。一緒に行った隊員 2 人は泊まり込み、連休の観光客のお世話をする。



未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成30年(2018年)
～ 地元報道より ～

1月の出来事

南三陸町

◆南三陸町の仕事始めの席上、職員 280 人を前に町長は「一丸となり復興完遂」へ取り組むよう訓示した。今年度は志津川保育所、給食センターや生涯学習センターの建設が予定されている。

◆南三陸町の新春出初め式に、消防団・交通指導隊員の約 340 名が、6 日ベイサイドアリーナに集結した。「安全安心なまち」へと気持ちを新たにした。

◆高校や大学の受験シーズンを前に、入谷地区の Y E S 工房の「ゆめ多幸鎮(オクトパス君)」の制作が急ピッチで進んでいる。震災後から昨年未までで約 10 万個を販売した。

南三陸町は登米市の熊谷市長との間で、原発災害を想定し、広域避難で「協定締結」を 10 日にかわした。半径 30 k 圏内区域(U P Z 圏内)は、戸倉地区と志津川林・大久保地区など 612 世帯 1761 人が暮らす。

◆11 日に吉野復興大臣が来町し、町が進める地域資源の活用や、エコ対策などの取り組みを視察し、地元事業所などと懇談した。

◆公立高校の 2018 年入学志願者状況が発表され、志津川高校の倍率は普通科 0.54 でビジネス科 0.35 だった。

気仙沼信用金庫南三陸支店の三浦さん(26)が、60 代男性(福島県)が A T M から振り込みをしようとした時に、目的や内容を確認「特殊詐欺」と判断して、未然に防いだ。この行動に対し気仙沼署から感謝状が贈られた。

●

平成29年(2017年)

～ 地元報道より ～

12月の出来事

南三陸町

◆三陸道の南三陸海岸 IC～歌津 IC 間の 4.2 km が、9 日午後 3 時に開通する。当日は地元のカキを使った「かき汁」が振る舞われ、伝統芸能が披露された。

◆南三陸町の八幡川・水尻川のカケの捕獲は 11 月末では約 700 匹で、前年を約 100 匹上回った。現在採卵数は、自河川で 54 万粒と北上川から 500 万粒を移入し、合計で 554 万粒となった。遡上不調で卵確保への海産親魚の捕獲は 3 年目となる。

◆2 日東北楽天ゴールデンイーグルスの一年間の応援の感謝と報告会が町総合体育館で開催され、ファン 300 人が集まった。

◆南三陸町議会 12 月定例会が 6 日から開催される。一般会計約 6100 万円の追加補正と、23 議案が上程される。新議会体制での一般質問は 6 名が登壇する。①佐藤雄一氏②千葉伸孝氏③今野雄紀氏④後藤伸太郎氏⑤倉橋誠司氏⑥及川幸子氏。

◆6 日開催の定例議会で佐藤仁町長は、復興完遂に 8 つの柱を掲げた。①復興総仕上げ②子育て支援の充実③移住・定住人口の拡大④人材教育⑤南三陸のブランド化⑥交流人口の拡大⑦地域コミュニティの再構築⑧エコタウン挑戦。

◆南三陸町は 8 日、災害公営住宅の家賃未請求や家賃算定ミス、町税や固定資産税などの課税誤りの担当職員や関連した職員 6 人を懲戒処分した事を発表した。

◆天皇陛下の食事や宮中晩餐会に携わった。元宮内庁大善課主厨長(総料理長)の高橋巨雄さん(74)が、7 日南三陸町戸倉沖田地区集會場で住民に「特製麻婆丼」を振る舞った。来場者は 100 人だった。

◆志津川保育所が 31 日に志津川市街地中央団地内に完成し、落成式が開催された。現在は 0 歳から 5 歳までの 68 人が入所している。工事費は総額 3 億 4 2 0 0 万円。

◆南三陸町は長崎県都市と、災害時の相互支援の締結式をおこなった。

◆気仙沼・本吉の 11 月 12 月の、アワビ開口の水揚げの数量は 2 万 1211 k で前年より 1 万 1464 k 減少し、3 割少ない要因は資源減少があげられる。

◆7 日開催の南三陸町の成人式には 135 人が参加した。新成人は 152 人だった。

◆南三陸町のモアイ像の移設工事が 1 月 20 日から始まり、2 月 20 日頃に「さんさん商店街」の隣に、引っ越しの完了予定としている。

◆南三陸町と株式会社サイネックス(本社 大阪府)との共同事業により、「暮らしの便利帳」が 16 日に町内全戸 4600 世帯に配布された。5 千部を発行し残りは移転者の元にも配られる。

◆17 日南三陸町志津川湾で、県警のヘリが出動し、「密漁防止」を関係機関が一丸となって訓練をした。

南三陸町の志津川魚市場の水揚げは 5927 トンで、約 22 億円で前年比では数量が 1.14 倍、金額は 1.23 倍と、ここ 20 年で最高額となった。秋サケは不漁でも単価が高く、イサダ・タコが数量・金額を押し上げた。

◆21 日南三陸町フットサル大会が開催され、歌津中学校体育館に 10 チームが出場した。結果は、①vamos ②フレンドファミリーとなった。

南三陸町役場で 19 日夜、志津川地区の防集団地中央区の、空き区画の一般開放用地に関する説明会があった。事業主からアパート建設を中止する事が町当局から報告があり、「住民の理解を得るまで見合わせる」との考えに至った。

◆25 日・26 日「全国被災地語り部シンポジュー

◆南三陸町志津川市街地に計画している河川堤防整備が終らず、「復興祈念公園」の完成が 1 年半遅れる。工事の遅延による事業費が 4 億円の増額となる。

南三陸町の十日町にあった「なかよしピアノ教室」は大震災により総てが流出し、登米市に移転しピアノ教室を再開した。ピアノを続けたいと願う子供たちは、登米市に通いピアノの練習を重ね、仙台市で開催された「ローランド・ピアノミュージックフェスティバル 2017」の東北大会で、小野寺まゆみさん(公短大 1 年生)が最優秀賞に輝き全国大会に出場する。被災を乗り越えピアノに励み最優秀賞となり、そのほかの生徒も各賞に輝いた。

◆気仙沼・本吉沿岸の養殖カキのむき身の出荷が順調で、11 月末現在の数量・金額が昨年同期の 1.3 倍となった。数量は 132.7 トンで金額は 2 億 5485 万円となっている。

◆日本とチリ共和国の友好 120 周年となり、町民交流スペースで木彫りのモアイ像や写真展が開催された。

日本医師会の医療貢献者に与えられる「赤ひげ大賞特別賞」に南三陸町歌津の鎌田真人さん(59)＝歌津八幡クリニック理事長と、佐藤徹さん(59)＝佐藤徹内科クリニック理事長の 2 医師が栄誉に選ばれた。

◆県産材利用に功績のあった企業・団体への「みやぎの木づかい表彰」に南三陸町が受賞した。町有林が森林管理の国際認証(FSC)を受賞したことや、今年建設した庁舎に FSC をふんだんに使ったことが評価された。

◆地道な活動で社会貢献している個人や団体を表彰する。日本フィランソロビー協会の「ましかどフィランソロピスト賞」に、宮城県立志津川高校が南三陸町に町民バス「モアイバス」を

ム」が南三陸ホテル観洋で開催され、町内の被災地やホテル所有の「高野会館」などを廻り現状を伝えた。

20 日南三陸沿岸の「ラムサール条約登録」のシンポジウムが開催された。『ラムサール条約、そして未来へ』をテーマに、東京海洋大学の名誉博士で客員教授の「さかなクン」が講演をした。会場には町民や町外から 100 人が参加し、「世界の志津川湾」にとアピールした。

◆全国の交通安全功労者に南三陸地区交通安全協会(藤谷廣司会長)が、長年の活動をたたえる全国表彰を授与された。

南三陸町の公共施設で最後の復旧事業「生涯学習センター」の安全祈願祭が、23 日行なわれた。10 社によるプロポーザルの応募があった。来春供用へ住民が集える場を目指す。公民館・図書館を併設し、建設費約 11 億 1200 万円で、山庄建設(歌津)が請負った。

◆南三陸消防署が町内を対象とする「命の大切さを学ぶ」授業をした。A E D(自動体外式除細器)を使った、心肺蘇生訓練をおこなった。

◆安倍首相夫人の安倍昭恵さんが、気仙沼市・南三陸町を 27 日に視察した。南三陸町では「高野会館」の被災した建物感慨深くご覧になった。

◆楽天イーグルス南三陸町応援団(小坂克己会長)は、今月 4 日に亡くなった元楽天監督の星野仙一さんをしのび、2 月 5・6 日に感謝の気持ちを込め、役場庁舎のまちどまに献花台を設置する。

28 日ハマーレ歌津となりの交流館「かもめ館」のオープンにあたりテーブルカットが行われた。地域活性化の役割を担い、「カキたら福まつり」の開催で会場はにぎわった。

◆2 月 2 日仙台駅で南三陸の特産品の P R を兼ねた、福幸市が開催された。

●

寄贈したモアイ化計画が高い評価を受け、青少年部門で奨励賞を受賞した。

◆23 日から「ハマーレ歌津」に商店街を明るくと、クリスマス前にモミの木が植樹された。

南三陸町に一般開放した防災移転団地への、アパート・民間会社従業員寄宿舍の建設が住民の反対を受け、建設を見合わせた。20 日の説明会には団地住民が 80 人出席した。「団地内にアパート建設などの開放は時期尚早」など、白紙に戻してほしいとの声が上がった。町の防集団地整備区画は 827 区画で、その内 113 区画に空きがでている。

◆南三陸町の「ラムサール条約認定」へのシンポジウムに「さかなクン」を迎えての記念講演が、1 月 20 日開催される。

◆23 日に南三陸町歌津のハマーレ歌津で「歌津あわびまつり」が開催された。歌津のアワビは 1928 年(昭和 3 年)に昭和天皇に献上した事や、大震災後に天皇皇后両陛下が歌津を初めて訪れた。それで 23 日の「天皇誕生日」に合わせた開催になった。アワビ約 300 キロが 1 人 1 キロ限定での販売で、整理券は 15 分で配布が終了した。4～9 個で 1 キロ 9 千円で販売された。

◆誰でも簡単に製作できる救助器材の作り方を考案し、水中転落事故に対する備えの強化に貢献したとして、八戸海上保安部から南三陸町志津川西田の千葉茂喜さん(68)に感謝状が贈られた。

◆南三陸町と山口県長門市と災害時の相互支援の協定を締結した。

◆志津川水系の捕獲は 900 匹にとどまった。1000 万粒の採卵目標は小泉川などからの移入を加え 980 万粒となり、目標達成となる見込み。

◆経済産業省の「地域未来率引企業」に、南三陸町の山藤運輸と気仙沼市の阿部長商店の 2 社が選ばれた。経産省の認定により国が成長を支援していく。